

本授業の主張点

本授業では、動物やその様子を表す音楽づくりを行います。音色、旋律、リズムを工夫することによって、試行錯誤しながら自分の表したい動物やその様子を音楽で表現しようとする児童の姿をめざします。

1 題材名 ようこそ！3の2動物園 ～音とリズムで音楽動物あらわれる～

【音色、旋律、リズム】

2 題材の目標

- 動物やその様子を表した音楽における音色、旋律、リズムの働きを感じ取りながら音楽を聴く。
- 音色、旋律、リズムを工夫することで自分の表したい動物やその様子を表現できることに気付き、音楽づくりをする。

3 評価規準【学力デザイン レベル2より】

評価の観点	ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	エ 鑑賞の能力
評価規準	音色、旋律、リズムを工夫することで表したいものが表現できることに気付き、進んで音楽活動に取り組もうとしている。	①音色、旋律を工夫し、鳥を表す音楽づくりをしている。 ②音色、旋律、リズムを工夫し、動物やその様子に合った音楽づくりをしている。	音色、旋律、リズムがどのようにかきわり合っ て、動物やその様子を音 楽で表しているのかを感じ 取って聴いている。

4 題材設定の理由

(1) 児童の実態

本学級は、音楽活動を楽しみ、意欲的に取り組む児童が多い。歌唱においては音程に気を付け、よりよい歌声をめざそうという意識をもって歌うことができる。器楽においてもリコーダーという新しい楽器に関心を持ち、「上達したい」「いい音を出したい」という気持ちで取り組むなど、一つ一つの音を大切にしながら音楽活動を行っている。

音楽づくりは、即興的なリズムリレーやメロディリレーを日常的に行い、音階を用いた旋律づくりなどを経験している。このような活動を多くの児童は楽しんでいる。また、自分の表したい具体的なイメージを持って和音づくりをすることも行った。その活動において、児童はイメージと音楽を合わせる楽しさを感じていたが、実際には、ねらいとするイメージとつくった音楽が合わないこともあった。

(2) 題材の意義

本題材は、音色、旋律、リズムといった音楽の構成要素を工夫することで自分の表したいものが表現できることに気付き、それを活用することをねらいとしている。本題材では児童にとって想像のしやすい動物やその様子を表すことにした。音色、旋律、リズムは、学習指導要領では「音楽を特徴付けている要素」として取り扱うことになっている。本校の学力デザインでも音色、旋律、リズムは教えるべき音楽の構成要素として挙げている。音色においてはレベル2「音の性質の違いが分かる」に当たる。旋律においては動物やその様子を表す工夫を旋律からも知ることを行っているので、レベル3「音楽におけるひびきの高さや感情の関連について考える」につながる。リズムにおいてはレベル1「生の根源に結びつくリズム（生命、自然、仕事、遊び）に気付く」を発展させたものである。リズムも音色も音楽の要素としては基本的なものである。本題材における旋律とは、ライトモチーフ的なフレーズよりも短い、音の組合せのことである。それらを意図をもって工夫することで音が音楽となっていく過程を理解し、経験することは児童にとって音楽の構造を理解する上で必要な事であると考えられる。

(3) 指導上の着眼点（視点の具体化の側面から）

本研究の視点「構造に基づいた音楽の見直しをもてるように、『音楽の型』を生かした音楽づくりを設定する」において、児童に捉えてほしいことは、音色、旋律、リズムを工夫することで、動物やその様子が表せることである。

そこで 本題材では、まず、作曲家がどのように動物を音楽で表現しているかに気付くような活動を仕組んでいく。

第一次においては、聴取によって作曲家たちが楽曲の中で動物たちをどのような工夫をして表しているかに気付かせていく。そして、それらの工夫を自分でも試してみることで音を音楽にする過程の一部を経験させる。

第二次では、第一次でつかんだ動物を表現するための工夫を生かして、自分達がイメージする動物の様子を音楽で表していく。聴取によって気付いたことを音楽づくりにおいて生かしてみることで理解が深まっていくであろう。また、頭では理解していても実際に自分の音楽として表現しようとするとは簡単にはいかないことに気付くことになる。試行錯誤することで作曲家の工夫の素晴らしさを改めて知ることにもなる。特に本時では自分達で設定した動物やその様子に合う音楽づくりをすることを通して、音楽の構成要素をどのように工夫すればいいのか考えさせていく。その際、この題材では音色、旋律、リズムを工夫する音楽の構成要素として挙げているが、場合によっては違う音楽の構成要素に着目し、それを工夫しようとすることも考えられる。その場合は、それが自分達の表したいものを表現するのに適したものならば認めていくようにする。また、旋律はいわゆる「かっこう音型」と言われる3度の音の組み合わせを旋律の型として提示する。3度音程は長3度・短3度どちらを選択してもよいこととする。音楽づくりは、自分だけでは気付かなかった音楽づくりのアイデアに気付くことができるように3、4人のグループで行う。また、自分達の思いが音として表すことができるかを確認することができるようにするために、グループ同士で聴き合う活動を入れ、客観的な意見を聞く機会をもつ。

第三次では、これまでに学習した動物やその様子が音楽の構成要素の働きにより、音楽とうまく結び付いたときの面白さを改めて感じるができるように、第一次で断片的に聴いた音楽物語を鑑賞する。

5 教材について

教材曲A	かっこうワルツ	ヨナーソン作曲
教材曲B	軽井沢の鳥たち「七つの俳諧」より	メシアン作曲
教材曲C	ピーターとおおかみ	プロコフィエフ作曲
教材曲D	おどるこねこ	アンダソン作曲
教材曲E	くまばちはとぶ	R・コルサコフ作曲
教材曲F	山道を行く（組曲「グランド・キャニオン」より）	グローフェ作曲
教材曲G	亀（組曲「動物たちの謝肉祭」より）	サン＝サーンス作曲

教材曲Aは児童にもなじみのある「かっこう」の旋律を使った楽曲である。教材曲Bと合わせて聴くことで鳥を表す音楽にも様々なものがあることに気付くことができると思う。

教材曲Cは、子どものためのいろいろな動物が出てくる音楽物語である。登場人物それぞれにライトモチーフと音色が与えられていて登場人物の様子や気持ちを分かりやすく楽しく表している。児童が音楽と物語を十分に楽しむことのできる楽曲である。

教材曲D、Eは、音楽が表している動物やその様子が捉えやすい楽しい楽曲である。

教材曲Fは、ロバのゆったりとした歩みがリズムや音色で表現されている。児童が、作曲家の工夫に気付きやすい楽曲である。

教材曲Gは、オッフエンバックの有名なオペレッタ「天国と地獄」の『カンカン踊り』の旋律をそのまま使っているが、一聴しただけではそれとは分からないほどに低い音で速度を遅くし、亀の歩みを表しているという面白さがある。

6 指導計画 (全4時間) (は視点)

次	時	教材	主な学習活動	指導上の留意点	評価
1	1	AB C ↓ ↓ ↓	音色とせんりつで鳥をあらわそう		イ ①
			<ul style="list-style-type: none"> 教材曲Aを聴き、「かっこう」を感じさせるポイントを話し合う。 教材曲Bと教材曲Cの一部を聴く。 鳥を音で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いにより、「かっこう」を感じさせる要素となっているものが音色や旋律にあることを気付けるようにする。 同じ鳥を表す音楽でも、作曲家のアイディアで工夫の仕方が違うことに気付かせるために教材曲Bと教材曲Cの一部を提示する。 いろいろなイメージで鳥を表すことができるように、実際に様々な鳥の声を画像とともに提示する。 	
	2	DE FG ↓ ↓	音楽で動物をあらわすポイントをさがそう		ア
			<ul style="list-style-type: none"> 教材曲C, D, Eの一部を聴く。 教材曲Fを聴き、いろいろなリズムでロボの歩みを演奏する。 教材曲Gを聴き、亀の感じを表すための作曲家の工夫を話し合う。 3, 4人のグループでどんな動物のどんな様子の音楽をつくるのか話し合い、それをもとに、音楽づくりの設計図を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材曲C, D, Eの一部を聴かせることで動物を音楽で表すことに関心をもつことができるようにする。 リズムを工夫することで動物の歩みを表すことができることを確認する。 既存の旋律を使っても、音色などの工夫次第で動物の感じを表せることを知らせるために、元になった楽曲の旋律を提示する。 自分達が表したい音楽のイメージがもてるように、絵や言葉などでも表せるようにする。 音色、旋律、リズムをどのように工夫して音楽づくりをしていくのか明確にすることで音楽づくりの見通しをもてるようにする。 	
2	3 (本時)		音色、せんりつ、リズムを工夫して動物をあらわそう		イ ②
			<ul style="list-style-type: none"> 前時の設計図をもとに音楽づくりをする。 グループ同士でアドバイスをし合う。 アドバイスを生かして、自分達の音楽づくりを見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 設計図に合った音楽がつかれるように、前時に自分達が考えた音楽のアイディアを確かめながら音楽づくりができるように働きかける。 表したい動物のイメージが音楽で表せているか、表せていないとすればどうすればよいか音楽づくりのポイントに沿ってアドバイスさせるようにする。 アドバイスをもとにつくった音楽を検討させることで、表現したいものがより伝わるような音楽になるように助言する。 	
3	4	C ↓	動物たちが出てくる音楽物語をきいて、楽しさのひみつを見つけよう		エ
			<ul style="list-style-type: none"> 教材曲Cの導入部を聴き、登場人物たちのライトモチーフを口ずさむ。 楽曲全体を鑑賞し、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物たちを表すライトモチーフの旋律やリズム、楽器の音色を確かめるために導入部を提示する。 ライトモチーフや音色を自分で確認できるように登場人物や楽器の絵をプリントや拡大図で提示する。 音楽の構成要素がうまくかかわり合うことで楽しい音楽物語になっていることに気付けるよう、作曲家の工夫や楽曲から感じたことを出し合えるようにする。 	

7 本時の指導 (本時 3/4)

(1) 目標

自分達の表現したい動物やその様子に合った音楽を**音色**、**旋律**、**リズム**を工夫してつくることができる。

[音楽表現の創意工夫]

(2) 展開

ゴシック・・・視点に関わる「音楽の型」

学習活動	教師の働きかけ (○) と形成的評価 (◆)
1 学習のめあてを知る。	○ 自分達が表現したい動物を音楽で表すために、前時に児童が考えた音楽のアイデアを出させることで、本時の目標につなげる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 音色、せんりつ、リズムを工夫して動物をあらわそう </div>	
<p>2 グループで音楽づくりをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <音楽づくりのポイント> <ul style="list-style-type: none"> ・音色—表したい動物のイメージに合うか ・せんりつ—1つとばしの音(3度音ていの音)のならばをつかう ・リズム—その動物の様子を表せているか </div> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぞうを表すためにはこの低い音色がいいな。 ・蝶々にふさわしい旋律はドミドミドミドミかな。 ・走っている様子を表現したいから、リズムはタッカタッカにしたらいんじゃないかな。 ・楽しそうに遊んでいる感じを出したいけど、リズムを変えても、楽しそうな感じにならないな。 <p>3 ペアのグループ同士でアドバイスをし合い、自分達の音楽づくりを見直す。</p> <p>4 自分達の音楽を紹介し合う。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○ 自分達が表そうとしている動物やその様子を常に意識させるために、どのような視点で音楽の構成要素を工夫していくのかを書いた音楽づくりの設計図を用いていく。</p> <p>○ 音楽づくりのポイントを示し、工夫すべき音楽の構成要素を確認できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆自分達の表現したい動物やその様子に合った音楽を工夫してつくることのできているか。(観察)</p> <p>A 音色、旋律、リズムを工夫して、動物とその動物の様子が伝わるような音楽づくりを意図をもってすることができている。</p> <p>B 音色、旋律、リズムを工夫して、動物やその様子を表す音楽づくりをしている。 →より合ったものになるように、工夫できる音楽の構成要素に着目できるように助言する。</p> <p>C 工夫すべき音楽の構成要素を的確に捉えることができず、動物を音楽で表すことが難しい。 →設計図をもとに、どの構成要素に着目しどのようにしていったらいいか助言する。</p> </div> <p>○ 客観的な意見を言ったり聞いたりすることで、より自分達の表したいものに近付くような工夫ができるようにする。</p> <p>○ 音楽づくりのポイントを確かめることで、音楽の構成要素を意識したアドバイスができるようにする。</p> <p>○ 設定した動物やその様子が音楽によって表されているかということを観点とすることで、よりの確にアドバイスできるようにする。</p> <p>○ もらったアドバイスをもとに自分達の音楽を検討させることで、表現したいものがより伝わるような音楽になるように助言する。</p> <p>○ 工夫した所が分かるように、発表グループの音楽の設計図を実物投影機でテレビ画面に拡大して提示する。</p> <p>○ ワークシートを使い、本時の学習で気付いたことなどを児童が自己評価できるようにする。</p>